

【追記】

脱稿後、平尾魯仙の子孫を訪れる機会に恵まれ、魯仙の遺品などを確認することができたが、その中に、書陵部本の献上に関する書翰を見出した。これにより、

(1) 明治九年の明治天皇東北巡幸の際、魯仙は『安門瀑布図巻』の上覧を希望したものの果たせなかった。

(2) のちに、子孫が『安門瀑布図巻』を然るべき筋に寄贈したいと考え、弘前出身で文部省在勤中の外崎覚に相談した。

(3) 外崎は近衛篤麿に話を持ちかけ、献上が実現した。

などの点が判明した。このたび、子孫家から関係資料の公開を許されたので、ここに掲載する。

01 土岐安・三上不可止書翰下書 近衛篤麿宛

明治二十八年(一八九五)十一月以前

陸奥国中津軽郡雌谷村

一、安門瀑布図巻 全三冊

一、同 紀行 同巻冊

右安門瀑布図巻并同紀行ハ、私共祖父平尾亮致之揮毫ニ掛る者ニ御座候、右亮致ハ平民之身分に候へ共、幼年より国学を好み、平田篤胤の門人となり、大に斯道に精励候者ニ御座候、殊ニ戊辰戦争之際ハ、平民間にありて同志の者を集め、大に勤王論を首唱し、其後明治九年奥州後巡幸之儀御布告相成候趣を承り、暗門瀑布之真景、奉供覧度志願にて、斎戒沐浴、臨写仕候へ共、当時其機を得ずして空しく相果候段、遺

憾此事ニ奉存候、就而ハ今般閣下之御思量に依り、祖父の志望相立候様仕度希望ニ付、甚恐入候へ共、右品御伝献相成候様御取計被成度、奉懇請候、以上、

青森県弘前市和徳町
平民 師範学校教諭
岩手県 土岐 安
同県西津軽郡森田邸
土族 三上不可止
近衛公爵殿閣下

※外崎覚による下書と思われる。

02 外崎覚書翰 土岐吉太郎宛

明治二十八年(一八九五)十一月八日

(封書ウラ)

「弘前和徳町

九番にて

土岐吉太郎様

東京牛込

矢来町三

外崎覚

未拝芝眉候へ共益御多祥奉拝謝候、過般ハ度々御書面を賜り難有奉謝候、即小生よりハ一向御返事不申返、恐怖此事ニ奉存候、さて、兼而御やす様より御依頼之魯仙先生筆之暗門瀑布図巻ハ、献上品之例ニ準じ調製の上、一昨六日小生持参の上、近衛公爵御邸へ参り、御面謁を得候而、献上之儀御願申上候処、早速御承諾被下候へ共、只今ハ御存知之通り、北白川宮薨去相成候ため、宮廷御繁忙ニなられ候ニ付、何れ十一月後公爵自身御持参の上、御献上被為進候旨御話合被下候付、可然様御取計被下候旨御願申上置候、何れ文事秘書官より御通知書参り有之候御報可申上候、右ハ御序之際、御やす様并三上

不可止氏へ御通知被成下之様願上候、右願書ハ別紙之通り知人へ清書を頼み差上候付、為念御覧ニ入れ可申候間、貴下様并御やす様之御丹精ニ依り、魯仙先生之宿志相遂げ候段、小生共までも大悦罷在候、尚外ニも御用口勤め候心得ニ付、無御遠慮被仰下候様願上候事、幸便ニ付一書略筆仕候、

十一月八日
外崎覚 拜
土岐吉太郎様

03 平尾魯仙安門瀑布図巻紀行献上添書

明治二十八年(一八九五)十一月十五日

(封書ウラ)

「学習院長公爵近衛篤麿殿」

青森県土族三上不可止、同県平民土岐やすヨリ、祖父平尾亮致揮毫ノ安門瀑布図巻三冊、同紀行一冊献上願出候趣ヲ以テ、伝献被致候ニ付、御前へ差上候、此段申入候也、

明治廿八年十一月十五日

宮内大臣 伯爵 土方久元

学習院長 公爵 近衛篤麿殿

※資料03は、平尾家から弘前市立弘前図書館に寄贈されたものと同文・同体裁である。



貞昌寺(弘前市)の魯仙墓前での供養祭における土岐やす

(矢印の女性)